

「開発者インタビュー」

ハーベス HLシリーズの実像

■鈴木裕

オールドスタイルの中に
意識させない凄さが潜む

ハーベスのHLシリーズを見ると、ちょっとオールドスタイルに感じたりはしないだろうか。それは「全体が四角」「キャビットの角が丸くない」「光沢のない付き板仕上げ」といった伝統的な形と仕上げのスピーカーになっている。オーディオのイクイップメントはその形目体がすでにバフオーマンスである以上、このような形、仕上げだと実際に出てくる音までオールドスタイルかもしれないと思われそうだ。

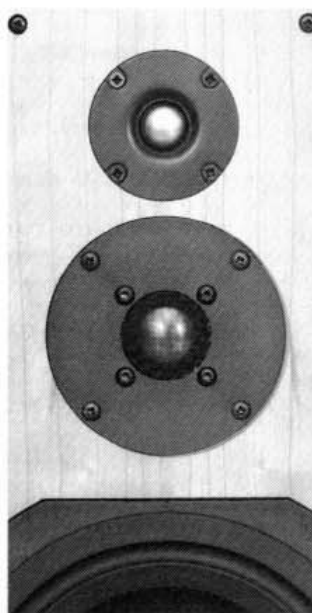
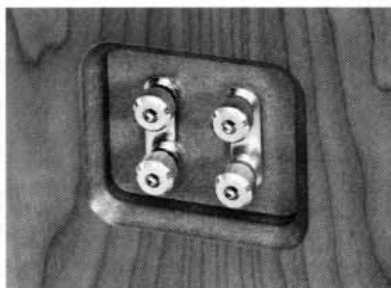
まずはっきりさせておきたいのだが、ハーベスの音はともいいところをついている。全体にホッとする音調ながら、プロのモニターとして使える音場感の正しさ、音色の濃淡を持ち、音の立ち上がり／止まりも正確だ。主役のポーカーとバックの関係といった音楽性も正しい。またスーパーHL5に採用されているスーパートゥイターの出来など、高音が出ていると意識させずに音の輪郭の精度が上がり、それが高域だけでなく全帯域の密度やキメの細かさにつながっている点など見事である。ある意味、トヨタのセタンのように意識させない技術力の高さなのだ。

イギリスの国营放送局「BBC」のモニタースピーカー直系のスピーカーカーメーカーであるハーベス。オーディオ愛好家として、また、ラジオのディレクターとしてもそのスピーカーの実力を熟知する鈴木裕が、来日中の同社代表アラン・シヨール氏を迎え、伝統に根ざしたスピーカー作りの実像に迫った。



Super HL5 ¥219,450(1本)

1987年、来るべきデジタル時代に対応する目的で、アルミハードドーム・トゥイターを投入し開発された「HL5」。その改良モデルとなる本機は、ハーベス史上初めてスーパートゥイターを搭載した3ウェイバスレフ型。エンクロージャにはHLシリーズ伝統の「Super Tuned Structure」を採用する。これは重量や剛性ではなく素材そのものの物性と其の組合せで不要共振のみをダンプする手法で、前後のバツル面に高硬度な素材で鳴きにくくし、左右側面は逆に積極的に鳴らし、天板・底板から音を抜くという役割分担で絶妙に音調を整えている。周波数特性は40Hz~24kHz(±3dB)。インピーダンスは8Ω。能率は86dB。大きさは323W×635H×305Dmm。重さ16.8kg。4端子構成でバイワイヤリング、バイアンプにも対応する。問い合わせ先：エムプラスコンセプト ☎045(845)7639



スーパートゥイターにはチタン・ダイヤモンド採用20mm口径ハードドーム型を採用。10kHzより上の帯域をカバーする。また、分解の向上によりSACDなどのハイスベックCDに対しても確かな対応力を備えた。磁気回路には強力なネオジウムマグネットを用いている。トゥイターは従来機と同様の25mmアルミ・ハードドーム型



ハーベスの最新作、Super HL5。新世代デジタルオーディオフォーマットをにらみ、スーパーツイーターを搭載しているが、ベーシックな構成は1988年発表のオリジナル機を踏襲している。

ユーザーが長期間満足して ご愛用いただける製品の開発が 私の使命だと思っています

す。ところがある時期から、R&D部門のはたしていた役割が民間にわたされ、またセクション毎に利益を優先するようになりました。ですから、BBCの制式モニタースピーカー、つまり日本でも有名なLSシリーズが製造されることがなくなったのです。そんなときBBCのエンジニアから相談されて、LSシリーズに代わるものとして開発したのがモニターシリーズで、例えばモニター30はLS5/9のリプレイスモデルとして設計を行なっています。ただ音質にこだわりのないセクションのエンジニアの中には、予算優先で安いマイクやスピーカーを使うユーザーの声を最優先しなければいけないというユーザーなども、テレビ映りのよさや予算などで、音響的に好ましくないセットや、

決して音質がいいとはいえないマイクを使うケースがほとんどになってしまったのは、いいことではありませんね。

——日本でもそうですよ。

AS そうなんです。いずこも同じですね。それはさておき、BBCのスピーカーのメインテナンスや納入は、事実上ハーベスが一手に引き受けている状況です。そのようなことから、多くのエンジニアから貴重なアドバイスをたくさんいただけているのは非常

に幸運なことだと思っています。もちろんコンシューマーのユーザーからの意見も大いに参考にしますね。

——プロ用がベースにあってもハーベスのスピーカーはどこか暖かい雰囲気を持っているように感じますが、そのへんは意識されているのでしょうか。

AS まったくありません。ごく普通に作っている結果だと思つのですが……。スピーカーに限らず、設計者というものはエゴを持っているから、自分のカラーを製品に反映させたいと思つのではないのでしょうか。ですが自分は、できるだけそういうエゴを出さない状態にしたいと考えているのです。なぜなら、私には音楽家のような感性も技量もまったくありません。なぜ偉大な演奏者があれほどの音楽ができるのか、信じられないことなのです。では、私にできることは何かと云えば、演奏家と聴衆の間に立つて、音楽をできるだけ自然に届けられるスピーカーを作ることしかない。そのためにはさまざまな人の意見に耳を傾け教えることが必要なんです。

——自然な音、というのはあらゆる設計者が口にする言葉ですが、具体的にはどういうものなのでしょうか。

AS そうですね……。自分なりに思つこと

は、普通に人間が生活していて聴こえる中で、嫌な感じを持たない音がありますよね。それは一種の自然の必然から来る音だと思うんです。もちろんその中には危険を知らせる音もあるでしょうが、耳に快い音がたくさんある。あるいは人の声であったり……。ごく普通の音が自然に聴こえることが私には大切なことなのです。うるさい、やかましいと思つ音は、私の中の基準にはありません。うまく言えないのですが必然的な音(certain sound)であるかどうか、私の判断の源であり、それが自然なサウンドにつながるのではないのでしょうか。

——それではインタビュ어의最後に、今後の製品について教えていただけますか。

AS もちろん現在の路線は長く続けていきたいと思つていますが、いま非常に興味を持っているのは、私の子供の世代、20歳くらいのジェネレーションにとつてどういうスピーカーがよいのか、ということなんです。彼らは私たちとはまた違った感性を持っていますから、そこから新たに学ぶものがあるんですね。そうした若い世代に向けたスピーカーを近い将来発売する予定です。

——これからも変らぬスピーカーづくりの姿勢を期待しております。本日はありがとうございました。

ボン言われたカーオーディオとか、そういったバックグラウンド・ノイズに負けないために再生するレベルが上がっているのではないのでしょうか。

また、ポータブルのCDプレーヤーなどからイヤフォンで音楽を聴くために、難聴の人が増えているのかもしれない

●音造りの方法 「最終的な軸となるのは ヒューマン・スピーチです」

具体的なことも聞いてみた。

ハーベスではどんなソースを使って音のチューニングをしているのだろうか。

「私は、どんな音楽でも好きです。しかし最終的に音を決めるのは人の声（ヒューマン・スピーチ）です。なぜならば人間が進化する中ですつとそれを聞いてきているから、人の声がちんと再生できるならば音楽を聴いても問題ありません。一番、自分でも分かる基準でもあるし。それを再生することによって音が変な時も、正しい時も、そして良すぎる時も分かるので人の声を基準としています」

ここで、僕がスーパーHL5を聴いた時のメモの1行目に「人の声が非常に良い」と書いてあることを伝えるととても喜んでくれた。

次にキャビネットに使用している素材について。形だけでなく、素材としてもトラディショナルなものから構成されているように思っていたからだ。

「新しい素材にはトライしています。たとえば強化プラスチックとか、グラスファイバーを使ったものとか。ただ、響きに素材のキャラクターが乗るんですね。気になる響きに対して対策しても、その帯域以外のところにまたあらたに問題が出てきます。取り去ることができないんです。依然として新しい素材は探しつつありますが」



HL Compact 7ES-2 ¥152,250(1本)

かつての人気モデル「HL Compact」始祖とする2ウェイバスレフ型。Super HL5に比べ回り小型で、ウーファー、トゥイーターは共通。スーパートゥイーターは装備されていない。エンクロージャにはやはり伝統的「Super Tuned Structure」を採用する。外装仕上げはSuper HL5のチェリーに対して、こちらはチークで落ち着いた色調だ。周波数特性は48Hz~24kHz(±3dB)、インピーダンスは8Ω。効率86dB。大きさは271W×520H×315Dmm。重さ12.5kg。ターミナルは4端子構成



Super HL5、HL Compact 7ES-2、そしてMonitor30の20cm径ウーファーには、特許技術のRADIALコーンと呼ばれる自社開発の振動板の最新バージョンを採用している。これはポリプロピレンにアルミニウム配合し剛性を高めたカーブドコーンで、正確なピストンモーションと自然なレスポンスで、ハーベスのスピーカーの色づけない音調に大きく貢献しているという。低損失素材のエッジは珍しい逆エッジ構成だ

前面のバッフルと後ろ側の背板。この2面をがっちり作り、それ以外の天板/底板、左右の側面を積極的に鳴らして響きをコントロールしているハーベスのキャビネットの作り方。外観としては付き板の仕上げだが（業務用のモニタ130は除く）内部はどうなっているのだろうか。

「内側はMDFで、外側の突き板にはチェリーやチーク、ユーカリなどいろいろ使っています。ただ構造としてMDFと付き板の間にマホガニーを挟んでいます。この素材は経年変化に強く、構造体として粘りが出ます。非常に高い

精度を必要とするキャビネットの作り方でコスト的には高くなるかもしれませんが」
またミッドウーファアのユニットについては特に自信があるようだった。

「トゥイーターは高域を補助的に足す、という考え方で外注でもいいものができますが、ミッドウーファアは自社製でこれが大事です。一般的にはコーンの型式の振動板はバキューム方式で作りますが、ハーベスではインジェクション方式を採用しています。これは製造する機械にお金がか

秋葉原 スピーカー & オーディオパーツ コイズミ無線

好評販売中 fostex特別仕様
8センチフルレンジ

FE88ES-R 限定生産品

¥13,230 (1本)

8cmフルレンジ 8Ω
規格細目は当社までお問い合わせください
専用真鍮製アダプターリング
¥11,067



発売記念特別価格でご提供中

●fostex社エンクロージャー 展示販売中

FE88ES-R専用

D-88ESR「スワン88」 ¥40,950×2

板材カットサービス シナアピトン 積層合板

FE88ES-R用バッフル板

(音の良いフィンランドバーチ材 18mm厚)

R加工塗装済 各1枚

- D-10用 H290 W150 ¥2,415
- 長谷弘 MM141S用 H290 W145 ¥2,415
- 長谷弘 MM151S用 H290 W175 ¥2,898
- 長谷弘 MM151用 H290 W190 ¥3,150

音の良さ・指向特性の良さ!!

ご試聴
出来ます

小形高性能な
ボールスピーカー

¥13,125 ペア

スピーカー部分のみを発売!!

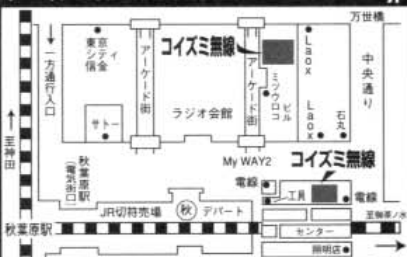
- リスナーを包み込むように、部屋いっぱい広がる豊かな音場感。DDスピーカーユニット搭載のボールスピーカー。
- マニアの話題になった線音源ユニットがビクターの技術でダイレクトドライブ・ステイクススピーカーとして完成しました。
- 使用ユニット 10.5mm×2.0mm
再生周波数 85~20,000Hz
インピーダンス 4Ω
最大入力 20W
ボール部サイズ 直径42mm/高さ295mm
最大外形サイズ 幅125×高さ315×奥行125 (mm)
(Victorコンパクトコンボーステム NX-MD1000-BのSP部分)

お店で選んで買える / 通信販売でも買える

■コイズミ無線のスピーカーもオーディオパーツクラブ・カタログ第12集 ¥490 ¥780 送料共、切手送付可能

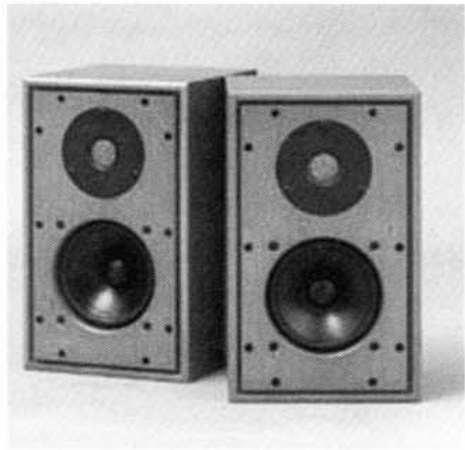
http://koizumi-musen.co.jp

メール:tsu-han@koizumi-musen.co.jp



コイズミ無線(有) 営業時間
10:30~19:00

- 本店
TEL (03) 3251-7811 ミツウロコビル5F
- 通信販売部(日曜定休)
TEL (03) 3253-0461 FAX (03) 3251-7814
- マイウェイ店(年末年始を除く年中無休)
TEL (03) 3251-7811
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-15-6ミツウロコビル1F
- 秋葉原ラジオスター店(JRガード下)(日曜定休)
TEL (03) 3251-9801
〒101-0021 東京都千代田区外神田1-14-2



HL-P3ES-2 ¥103,950(1本)

BBCモニターLS3/5Aの流れを汲む小型密閉型スピーカー。エンクロージャーは上位機と同様の「Super Tuned Structure」を採用し、Super HL5と同様のチェリー突き板仕上げとなっている。11cm径ウーファーはカスタムメイドのポリプロピレン・コーン型。これに上位機と同様のアルミハードドーム・トゥイーター(19mm径)をマッチングしている。周波数特性は75Hz~20kHz(±3dB)。インピーダンスは6Ω。能率は83dB。大きさは188W×305H×198Dmm。重さ5.9kg。ターミナルは4端子構成。防磁型のため設置スペースを選ばない



先述のとおり、HLシリーズはキャビネットの天板・底板に音を抜く役割を持たせているため、妨げないようインシュレーターで筐体を浮かせた方が好結果のようだ

未来への展望
「デザイン性の追求や、DSPの可能性なども模索しています」

未来へ向けてハースはどんなことを考えているのだろうか

かるとは、音質的に納得のいくものを作るには必要です」

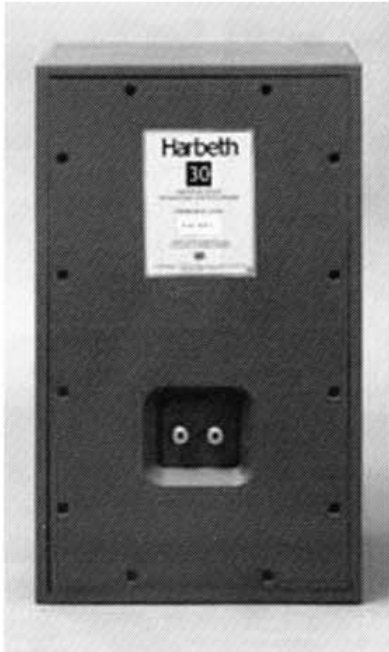
テストの時に使用しているアンプについては最初は言いにくさそうだった。ため息をついたり、首を無言で振ったりしたあげくに「それはナールバスな問題です」と言ってみたり。多くのスピーカーメーカーがどんなアンプでも鳴りますよと答えるのも、商売とか、実際に使用してもらっているユーザーの立場を考えれば理解できるところではあるが、それでもしつこく聞くと渋々答えてくれた。

「BBCモニター用に、モニター30と40のアクティブタイプのもがあります。その40の方の内蔵パワーアンプをモディファイしています。これは日立のMOS-FETを使ったトランジスタアンプです。プリアンプは使用せず、ごくシンプルなおツプアッテネーターで音量調節しています。送り出し側としては、DAT、CD、DVDなど、いろいろなものを鳴らしています」



Monitor30 ¥210,000(1本)

BBCモニターLS5/9の置き換え用モデルとして誕生したのが本機。現在はBBCモニターの規格自体が消失しているが、その交換モデルとしての役割を持たせるよう、同一の筐体サイズとしている。ウーファーは20cm口径の自社開発RADIALコーン。トゥイーターはSEAS社製カスタムメイドのソフトドーム型で、プロユースを考慮した高耐入力設計となっている。エンクロージャー構造はやはり「Super Tuned Structure」を用い、外装は塗装色のグレーで仕上げられている。周波数特性は50Hz~20kHz(±3dB)。インピーダンスは8Ω。効率85dB。大きさは279W×460H×277Dmm。重さ12kg。ターミナルは2端子構成



うか。ハイスベックCDについての考え方は？
「フォーマットについて言う立場ではありませんが、現実的にはスローバなCDと言うくらいだからSACDの2chがいいかもしれません。ただフォーマットの可能性として考えると、DVDオーディオの方が優位性があるでしょう。スピーカー造りとしては、これはローテクなもので、時間をかけて対応していけばいいんじゃないかと思っています。」

面白かったのは、HLSシリーズとは別にもっと安価で、現代的なデザインのシリーズを作る計画もあるようだ。学生などの若い世代の人達が手に入れられるように、ということ、MP3ジェネレーション・コンシューマーズ、という言葉を使っていた。彼らは形、素材、色、そういうも

増えている中、ハーベスの音はチャーミングだ。その中心

ホッとさせるスピーカー

情報量をこれみよがしに出してくる方向のオーディオが増えている中、ハーベスの音はチャーミングだ。その中心

のに対しては反応するのでデザイン的な訴求力を高めるそう。だ。

あと、これは個人的な見解ということで話してもらったのが、スピーカーのパフォーマンスを20〜30%改善させる可能性の技術としてDSP（デジタル・シグナル・プロセッサ）を挙げているのも面白かった。以前にも開発していたが、事情があつて計画はいったん頓挫している。またニュースとして、ハーベスはアテネ・オリンピックの公式モニターシステムにもなっているそうだ。



インタビューは、ハーベススピーカーの日本での輸入販売業務を担当するエムプラスコンセプトの世本氏を交えながら、弊社会議室にて行なわれた。アラン・ショウ氏の誠実な人柄が、同社スピーカーのサウンドにも色濃く反映されているようだ

にアラン・ショウ氏のユーモアがあつて誠実で、技術者としてもマネージャーとしてもきちんとしていて、しかも周囲にいる人をホッとさせるような人間性があることが分かった。インタビュー中、何回かWin! Win! という言葉を繰り返していた。意識すれば、坂上二郎さん風に「勝ちます！ 勝ちます！」といった感じだろうか。いち音楽好きとしても、ラジオのディレクターとしても応援したいブランドだと改めて思った。